



リステラス星圏史略
古資料ファイル
6-0-1



《 ユヴァの猿族 》

(発掘作業中)

霧樹里守 is 土岐真扉
as
柊実真紅

(先史文明)

(先史文明)

～ユヴァの猿族～

～ ユヴァの猿族 ～

(柊実真紅)

◎ 始まり。

◎ 始まり。

2017年2月23日 [リステラス星圏史略 \(創作\) コメント \(1\)](#)

◎ 始まり。

かつて在りし 猿（エン）族 の
ニワンサ（共鳴）する魂の複数の
かさねる扇のようにつらなりあう
すべての個が ひとつである充足。

その地を訪なうサイキエ（"祭祀"）は

足早に また 義にしたがい

猿（エン）の少女は

その緋の衣に魅かれる。

"外" のニワンサ（共鳴）なき世界 その事象をも

そ（部）の瞳で共振したいと。

すべては そこから 始まる。

(自分の足の裏を見るために、後ろにいる他人の目が借りられる生活、また共鳴関係。)

(自分の足の裏を見るために、後ろにいる他人の目が借りられる生活、また共鳴関係。)

2017年2月23日 リステラス星圏史略 (創作)

※ある日のトリップは猿人族の共鳴圏についてのものだった。
富士スーパーの店員の制服の色を視ていて思いだしたんである。

自分の足の裏を見るために、後ろにいる他人の目が借りられる生活、また共鳴関係。

カベがない。

PKまたは予知といった物理作用の力を持つ者こそ少ないが、自然に即する、また他者と一体となる、という、心的状況は、より混沌としたプリミティヴィティであり、かつまた自我の不明確な薄明の海でもある。

長老たちは多く寿命を知らず、また彼らの耳目に届かぬなにもものない。

村の生活形態は原始的素朴な狩猟採集である。

自我のみょうにくっきりした子供もしくは少女がある。(=わたしである。)

経路として横断してゆく祭祀たちの姿に魅かれる。

彼らのもつ"外"に魅かれて、ついてゆく。

旅に出る。

個人的な接触はない。祭祀はあべとおるである。

また村には隣人として とう・めある = とう-まる がいた。

知りたかった世界を渡りつくして、なんて遠くに来たのだろうと。

汚れ疲れて、なお満足して、ふりかえると、

そこにはいつでも、わたくしを

視ることのできる

長老たちがいる。

リステラス星圏史略
古資料ファイル
6-0-1
《ユヴァの猿族》

<http://p.booklog.jp/book/113315>

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/masatotoki/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/113315>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト